

2007年(平成19年)11月19日(月曜日)

夕刊 読書 賞 新聞

わかるかな?

日本がハワイに建設したすばる望遠鏡には、世界最大の薄型1枚鏡を使っていたり、観測装置の数も世界最多だったりという世界一があります。観測の

成果でも、実はいまだ破られていない「世界一」を2006年に達成しました。それは次のうちのどれでしょうか。

- ①宇宙で一番遠い銀河の発見
- ②銀河系で一番遠い星の発見
- ③太陽系で一番遠い天体の発見

出題者は、家正則・国立天文台教授



解答は左ページに

わかるかな? 解答

問題は
右ページ

答えは①です。

はるか遠くにある銀河は、宇宙膨張に伴って遠ざかっていく際の「赤方偏移」を頼りにその距離を見積もります。赤方偏移は、もともとの光の波長が長くなる(赤っぽくなる)割合として定義されます。

現在、測定に成功した最も遠い天体は、2006年にすばる望遠鏡で確認された赤方偏移6.96の銀河です。遠い天体ほどその光が届くまでに時間がかかるので、この銀河の場合、129億年昔の姿を見ていることになります。これはビッグバンで宇宙が始まってからわず

か8億年後に相当します。

遠い銀河探しの世界競争では、ベストテンのうち九つがすばる望遠鏡による発見となっています。



ご意見、ご要望 こちらまで

ご意見、ご要望は、科学部へ

ファクス(03・3217・8169)か、
電子メール(t-kagakubu@yo
miuri.com)でお寄せ下さい。